

甲子園優勝は選手のおかげ ノートのやり取りから学ぶ



あらい なおき
荒井 直樹

[前橋育英高等学校硬式野球部監督]

今年夏の全国高校野球選手権大会で初出場ながら優勝を果たしました。2カ月近く経った今でも信じられないですね。接戦も多かったので、本当によく勝てたと思います。

甲子園で優勝できて、「監督をしていてよかった」とは思いますが、それで一端の指導者になることができたという自信はありません。むしろ自分は監督に向いていないとずっと感じてきました。「もう辞めよう」と思ったことも数えきれないほどあります。

そもそも選手の時に監督を志したことはありません。神奈川の日本大学藤沢高校を卒業後、いすゞ自動車に入社し、13年間プレーして引退。そのまま会社に残ってサラリーマン生活を送ると漠然と考えていました。そこへ思いもかけず母校から声がかかり、コーチを経て監督に就きました。

ですが、十分な心構えも準備もなかったもので、練習メニューを組むにも四苦八苦。もともと人前で話すのがすごく苦手だったので、選手たちに伝えたいこともうまく言えない。監督就任の前年に甲子園に行ったチームの主力が残っていたにもかかわらず、結果を出せず、3年が経ちました。

「指導者としてはもう無理かな」と思っていた矢先に今の高校から誘っていただいた。その時、母校のような強豪校を指揮するのではなく、弱小チー

ムを徐々に強くしていく経験をしてみたいという気持ちがわいた。いすゞがそうしたチームだったんですね。大学生にも負けるチームが都市対抗に出場するまでになった。同じような経験を再び味わいたくて移りました。

でも、ここでもなかなかうまくいかず、「やはり向いていない」という思いを抱き続けました。そんな私が多少なりとも肩の力を抜いて監督業に取り組めるようになったのは、選手たちに「野球ノート」を書いてもらうようになったことが大きかったですね。

3～4年前に期待通りのプレーを選手ができず、地方大会の初戦で敗退した。それで選手たちに言ったことがどれだけきちんと伝わっているかを確認する必要があると痛感。自分が言ったことをどう受け止めたか、選手たちに定期的にノートに書いて提出してもらうことにしたのです。

そこには、選手たちがそれぞれ悩んでいることや質問なども書き込んでもらいます。すると、個々の選手の性格や特徴が分かるようになり、それに応じた指導ができるようになった。ノートを読んでいけば、今のチームにどんな練習が必要かも見えてきます。

私が言ったことをしっかりと聞いていない選手は起用しないという姿勢を明確にしているので、選手たちも真剣に感想や悩みをノートに書き込みます。そこにはヒントが詰まっている。どんな格言や指導書よりも、このノートを読んだ方が勉強になりますよ。

このように私が教えることよりも私が選手たちから教わることの方が多い。指導者として壁に当たり続けてきた私を救ってくれたのは彼らです。今回の甲子園での優勝も、私が導いたものではなく、彼らに導かれたものだと思います。(談)